

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 10月 14日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2295100032
法人名	有限会社 タスク
事業所名	グループホーム かつを
所在地 (電話番号)	静岡県焼津市中根181 054-656-4330
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年9月19日

## 【情報提供票より】(平成20年9月4日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 5 月 15日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	9 人
常勤	10 人
非常勤	1 人
常勤換算	10.2

### (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	造り
	2 階建ての	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり	1500 円		

### (4)利用者の概要(平成20年9月4日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	1 名	要介護2	2 名			
要介護3	1 名	要介護4	5 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84.6 歳	最低	74 歳	最高	91 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	篠原医院内科、田中歯科
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

焼津市郊外の静かな住宅地に立地し、ホーム前には水草あふれる小川が流れている。ゆったりとした敷地には家庭菜園や東屋・ウッドデッキ、ホーム内は木の香あふれる作りと昭和モダンのインテリアが配置され、清潔で明るい雰囲気のホームである。代表者・施設長のホーム運営の熱い思いが職員と利用者の明るい関係に表れている開設後1年半を迎えた若いホームである。地域に根ざして職員・利用者が「かつをの家族」として暮らしていくためにも、運営理念の明文化と掲示、自己評価の全職員での取り組み、運営推進会議の活用による地域や家族との信頼関係作り、終末期対応の確立等への取り組みが期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回は初受審である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は初受審であり、施設長が取りまとめ全職員での取り組みには至っていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	本年2月に一度開催されたが、以降の開催には至っていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	相談窓口は重要事項説明書に明示され、ホーム内にも窓口を掲示している。面会時の家族との対話や電話連絡などで意見・要望を確認し日々のケアに活かしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会や子供を守る会にも加入し、川掃除や地区祭典などにも参加し地域との交流を図っている。地区のお祭りではホーム駐車場が山車の休憩所になっており、利用者の楽しみになっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で役に立つ施設運営を目指し、職員と利用者一人ひとりが「かつをの家族」として暮らしていける介護を行っているが、具体的な理念の明文化や掲示には至っていない。	○	ホーム設立の基本理念は日々の介護の基本となるものから、全職員でわかりやすく目標となる理念の明文化や掲示への取り組みが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月開催のミーティングや毎日の申し送りなどで、理念の確認を行い日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会や子供を守る会にも加入し、川掃除や地区祭典などにも参加し地域との交流を図っている。地区のお祭りではホーム駐車場が山車の休憩所になっており、利用者の楽しみになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初受審あり、自己評価は施設長が取りまとめ全職員での取り組みには至っていない。	○	外部評価・自己評価をホームの質の確保・向上へつなげる最大の機会として活用し、個人やホーム課題の設定につなげるなど全職員一体となった取り組みが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年2月に一度開催されたが、以降の開催には至っていない。	○	ホーム運営の課題解決や地域との協力関係・家族との信頼関係を築くために、関係者との話し合いの場として多くのホームが有効に活用している運営推進会議の推進が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	いろいろな機会を通じての話し合いや事故報告、利用者や事業所としての相談などを通して関係作りを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の請求書送付時にホームでの活動報告を写真入の「かつを新聞」で伝えたり、来訪時の面談や電話連絡等で個々に合わせた報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口は重要事項説明書に明示され、ホーム内にも窓口を掲示している。面会時の家族との対話や電話連絡などで意見・要望等を確認し日々のケアに活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員を適材適所に配置し、異動や離職を少なくするよう配慮している。離職等の際は利用者を一人の人と考え、さりげない挨拶をしながら利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設時から職員のスキルアップを目指し、年度計画の基に月一度介護技術や認知症ケアに関する施設内研修会を開き職員育成の取り組みを実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長はケアマネージャー連絡会等で意見交換の機会はあるが、職員を含めた地域同業者や他ホームとの交流には至っていない。	○	他のグループホームを見ることにより多くの気づきを感じ取れ、また交流によってホームの中で行き詰まったときに他の視点からのアドバイスをすることも出来るので職員レベルでの相互訪問の機会を作る取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が安心して落ち着いた生活ができるよう、生活歴、趣味・趣向等を参考にして、職員による声掛けや家族とも相談をしながらその場の雰囲気や職員に徐々に慣れるように支援をしている。小規模多機能の利用からホーム入居となる利用者もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒にいる時間を多くするように心掛け、日々の会話の中から利用者の経験や生活暦をつかみ、利用者職員は家族と考えて安心して充実した生活が送れるようにさげない支援に徹している。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中で個々の利用者の希望・意向の把握に努め、また利用者の顔を見て状況を判断し対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時に利用者及び家族の生活に対する意向を詳細に伺い、毎月のカンファレンスで総合的な介護の方針を取り決め、生活全般の解決すべき課題を長期と短期目標とし介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は長期目標は6ヶ月毎に、短期目標は3ヶ月毎に見直している。見直し以前に対応できない変化が生じた場合は随時現状に即した計画に作り変えているが、家族の同意印などは確認できなかった。	○	定期的な見直しによる介護計画書の更新や家族との話し合い・説明による同意印など記録上で明確にする取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々要望に応じて通院介護、外食、買い物など柔軟な支援をしている。併設の小規模多機能型の利用者との交流も活発に行われている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう家族と協力し通院介助を行ったり、複数の医療機関と関係を密接に結んでいる。また当事業所に看護師がおり、適切な健康管理に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態による重度化や終末期のあり方について、事業所の方針や家族の意向などの話し合いは行われているが、ホーム内での基本指針やマニュアルなどの確立には至っていない。	○	今後は終末期の対応として、医師、看護師等の医療関係者とホーム、家族が一体となったチームによるターミナル・ケアを実践するための基本指針やマニュアルなど体制作りの検討が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保には細部まで気を配り、入り口に面会簿を置かず、日誌の中にも書き込むようになっていたり、部屋のノックや馴れ合いにならない言葉かけや呼びかけなどで個人の尊厳を守る対応を心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員との対話で「大事にしていることは」の問いに「利用者の顔を見て状況を判断し、介護させて頂いている」とのことで、個々の利用者の日々の変化に応じて支援している。特に土・日・祝日は一般家庭並みの生活でと、寝坊もよしとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は専門の調理師が利用者の好みを聞きながら作っている。ある利用者が施設の畑でネギやジャガイモを収穫し、他の利用者が調理したり、配膳から片付けまで職員と協力して各自が得意な事をしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月・水・金組と火・木・土組の各組ごと週3回を基本とし、本人の都合により組の入浴日でなくても入浴できる態勢を整えている。檜作りの大きな浴槽が用意され、楽しく入浴できる環境と運営を心掛けている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や食事の準備・後片付けなど、自分の役割としてやっている利用者もいる。居間の壁面には、大正琴・尺八・踊り・小学生の銭太鼓などを楽しんでいる利用者の写真が飾られていた。また、個々には絵・習字などの作品もきれいに並べられ、風船バレーを楽しむ姿も見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	静かな田園風景に囲まれ、のどかに、そして安全に散歩できる環境が整っており、日々の食材の買い物や散歩、花見やドライブなど戸外へ出かける機会を作っている。施設も良く工夫され、出入り口のスロープは長くなだらかで車椅子利用の方も一人で出入りして外気浴を楽しんでいた。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関も居間出入口もオープンで鍵が掛けられていなかった。庭にも自由に出入りでき、外気浴もでき開放感のある施設であった。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署立会いの上、消火・避難訓練をしている。地区防災訓練にも参加して、地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。非常用の食料・水等の備蓄もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門の調理師による食事作りやグループホーム日誌一覧表で食事量は記録されているが、水分量については記載が見当たらない。	○	利用者の健康管理のためにも日々の水分摂取量の記録や、定期的に栄養バランスや摂取カロリーなどの栄養管理が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地内には家庭菜園や東屋・ウッドデッキがあり、ホーム内は木のぬくもりと昔懐かしいインテリアや観葉植物などがあり、居間や廊下もゆったりとして清潔感があふれている。畳の間やソファは利用者が日中気軽に集う憩いの場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、作り付けの洗面装備や戸棚も用意され、整然とした居室には、利用者の馴染みの品々が配置され、居心地良く過ごせるような工夫がされていた。		